

【執 筆 要 領】

1. 原稿の構成

1) 項目表

	項 目	原 稿 の 区 分		
		総説・原著・研究ノート	実践活動報告	資料・会員の声
表 紙	投稿者氏名			
	所属機関名			
	連絡責任者			
	原稿等の枚数		○	
	原稿の区分			
	タイトル			
	ランニングタイトル	△	△	△
	和文抄録	○	○	△
	キーワード	○	○	△
	頁数		○	
図 表 等	図・表・写真	○	○	△
	I 緒言／目的（はじめに）	○	○	△
	II 方法（対象と方法）／事業・活動内容	○	○	△
	III 結果／事業・活動成果	○	○	△
	IV 考察／今後の課題	○	○	△
	V 結論	○	△	△
	謝辞	△	△	△
	利益相反	○	○	○
	文献	○	○	△

○：必須，△：該当する場合または任意

2) 表紙及び図表（全原稿区分共通。但し、「資料」・「会員の声」は抄録，キーワード，図表等を省略できる）

	項 目	内 容
表 紙	投稿者氏名	全員の氏名
	所属機関名	全員の所属機関及び部署名，研究室名（右上付き文字（*1,*2…）等を用い，投稿者名と対応させる）までを記載する。
	連絡責任者	栄養学雑誌編集委員会事務局とのやり取りをするために必要な連絡責任者の氏名，郵便番号，住所，電話番号，Fax 番号，E-mail アドレスを記載する。
	原稿等の枚数	原稿本文，図，表，写真
	原稿の区分	総説・原著・研究ノート・実践活動報告・資料・会員の声のいずれか
	タイトル	短く，内容を適切に表しているもの
	ランニングタイトル	本タイトルが25字を超える場合は，25字以内のランニングタイトルをつける。
	和文抄録	〔目的〕〔方法〕〔結果〕〔結論〕に分けて，見出しを含めて600字以内にまとめる（構造化抄録）。
	キーワード	3～5個。本文を適切に表しているもの。MeSH タームに準ずることが望ましい。
	頁数	本文の頁数，図表の枚数及び掲載された場合の頁数（刷り上がり1頁は2,200字に相当。図，表，写真は平均して各1枚が200字相当）。
図 表 等	図・表・写真	原稿1頁に1枚ずつ作成する。図は，原則としてそのまま掲載することが可能な明瞭なものとする。表題については，図と写真では下部，表では上部に掲載する。なお，表においては，縦罫線は使わない。また，図，表，写真には，〔図1〕〔表1〕〔写真1〕等の通し番号をつけ，本文の欄外に，それぞれの挿入位置を指定する。補足的な説明事項を脚注におく際には，次の記号を順番に用いる。 †, ‡, §, , ¶, **, ††, ††

3) 本文（総説・原著・研究ノート）

項目	内容
I 緒言（はじめに）	背景と目的。先行研究と今回の研究仮説との関連を簡潔に示す。
II 方法（対象と方法）	対象者の選定方法や特性、データ収集及び解析の方法、倫理的配慮について記述する。解析方法については、本【執筆要領】「5. 統計解析」を参照すること。
III 結果	図、表を用いてわかりやすく示す。解析結果の書き方については、本【執筆要領】「5. 統計解析」を参照すること。
IV 考察	先行研究との関連、研究の制限事項（limitation）を含め、論理的に矛盾や飛躍がないようにまとめる。
V 結論	研究から導き出された重要点を簡潔にまとめる。実践上の意義（practical implication）を含む。
謝辞	当該研究の遂行や論文作成に際して、政府・企業・団体等からの研究費助成、試料提供、物品及び便宜供与等を受けた場合には、その旨を記述する。また、投稿者の条件に満たないが研究の遂行や論文作成に関わったものについては謝辞に記述する。
利益相反	利害関係に関わる情報を開示する。利益相反の有無について、具体的に記載する（例：「利益相反に該当する事項はない」、「著者〇〇〇〇は、株式会社□□□□から研究助成金ならびに試料の提供を受けた」等）。
文献	本【執筆要領】「4. 文献のリスト」に従い、引用順に示す。

4) 本文（実践活動報告）

項目	内容
I 目的（はじめに）	事業や実践活動の目的を示す。
II 事業・活動内容	事業や実践活動の説明と、対象者に対する倫理的配慮に関する記述をする。
III 事業・活動成果	事業や実践活動の結果、そこから得られた成果等を、図、表等を用いてわかりやすく示す。
IV 今後の課題	事業や実践活動を行う際の注意点や、今後同様の事業や活動をする人たちへのアドバイス等を記述する。
謝辞	当該事業の遂行や論文作成に際して、政府・企業・団体等からの研究費助成、試料提供、物品及び便宜供与等を受けた場合には、その旨を記述する。また、投稿者の条件に満たないが事業の遂行や論文作成に関わったものについては謝辞に記述する。
利益相反	利害関係に関わる情報を開示する。利益相反の有無について、具体的に記載する（例：「利益相反に該当する事項はない」、「著者〇〇〇〇は、株式会社□□□□から研究助成金ならびに試料の提供を受けた」等）。
文献	本【執筆要領】「4. 文献のリスト」に従い、引用順に示す。

5) 本文（資料・会員の声）

原稿の形式は特に定めない。本【執筆要領】「1. 原稿の構成」1) 項目表、2) 表紙及び図表、を参考に作成すること。但し、利益相反（必須項目）と文献（該当する場合または任意）は、下記を参考に記載すること。

項目	内容
利益相反	利害関係に関わる情報を開示する。利益相反の有無について、具体的に記載する（例：「利益相反に該当する事項はない」、「著者〇〇〇〇は、株式会社□□□□から研究助成金ならびに試料の提供を受けた」等）。
文献	本【執筆要領】「4. 文献のリスト」に従い、引用順に示す。

6) 英文タイトル及び抄録

投稿規定 8. 4)「掲載可となった後のプロセス」に記載されているように、掲載可の通知を受けた後、2週間以内に下記の原稿を提出すること。

英文 タイ トル 及 び 抄 録	Title	和文タイトルの内容と一致したもの
	Authors	投稿者全員の氏名
	Affiliation	全員の所属機関名（左上付き文字（*1.*2…）等を用い、投稿者名と対応させる。
	Abstract	[Objective] [Methods] [Results] [Conclusions] に分けて、250words 以内にまとめる。（Structured Abstract）和文抄録の内容と一致していること。
	Key words	3～5 個。日本語キーワードと一致したもの

2. 原稿の作成フォーマット【様式4】(学会ホームページからダウンロード可)

- ① パーソナルコンピュータを用い、本文はA4判白色用紙を縦置きとして、横書きで作成する。なお、提出ファイルは、Windowsの汎用ソフトウェアで扱うことのできるものとし、本文はMS-Word、表や図のファイルはMS-ExcelまたはPowerPointの使用を推奨する。
- ② 1頁あたり40字×25行とし、余白を上下各30mm、左20mm、右25mmに設定する。
- ③ フォントは、和文原稿では明朝体10.5pt、英文原稿及び英文抄録はTimes New Roman 12ptとする。
- ④ 表紙から文献までには、通し頁(原稿下部の中央)及び行番号(全頁での通し番号)をすべての行につける。
- ⑤ 数字には算用数字を用い、数字や英字は半角とする。
- ⑥ 図、表、写真には、[図1][表1][写真1]等の通し番号をつけ、本文の欄外に、それぞれの挿入位置を指定する。英文で表記をする場合は[Figure 1], [Table 1]とし、[Fig.1]などと省略はしない。
- ⑦ ファイル名は、初回は“本文(投稿者氏名).docx”、“表(投稿者氏名).xlsx”等とし、査読の経過途中では、“本文2016_25_2(投稿者氏名).docx”とする(注:受付番号「2016-25」の第2審用の原稿の場合)。

3. 原稿作成上の注意

- ① 文章はひらがな、新かなづかいとし、漢字は原則として常用漢字とする。
- ② 栄養学用語は、日本栄養・食糧学会編「栄養・食糧学用語辞典」、医学用語は日本医学会医学用語管理委員会編「医学用語辞典」等に準ずる。
- ③ 実験に用いる物質については、商品名を用いず、必ず化学物質名を用いる。
- ④ 数量は算用数字を用い、桁数の多い数は3桁ごとにカンマで区切る。ただし、ページ数、通算番号(文献、特許等)の数字にはカンマを入れない。主な単位は次のように表す。km, m, cm, mm, μm , nm, kg, g, mg, μg , kl, l, ml, μl , kcalとする。
- ⑤ 論文中、繰り返し使われる語句については、略語を用いてかまわないが、初出の時には省略しない。
- ⑥ 図や表を引用・転載した場合には、投稿前に著作権者の承諾を得て、引用文献番号に加えて、図や表の下に出典を明示する。
- ⑦ 外国語名称はカタカナを用いることを原則とするが、固有名詞や原語の表記が広く使われ、理解しやすい場合には、原語を使用する。
- ⑧ 本文中の年は西暦で記載する。文献に関しては本【執筆要領】「4. 文献のリスト①~④」の項を参照のこと。
- ⑨ 本文中に、章・節・項等を設ける場合は、以下の符号を使用する。

I. II. III.

1. 2. 3.

1) 2) 3)

(1) (2) (3)

- ⑩ 文献は論文に直接関係のあるものにとどめ、引用順とし本文の最後に一括して記載する。本文中の引用文献番号は右上付とする。連続する2つの文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る(例,^{1,2)})。連続しない3つ以上の文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る(例,^{1,3,5,7,9)})。連続する3つ以上の文献を引用する場合、最初の文献番号と最後の文献番号を「~」でつなぐ(例,^{2~5)})。また、本文中に著者名で引用する場合、著者が2名以下の場合には姓を記し(例:木戸・恩田¹⁾)、3名以上の場合には最初の著者の姓を記し「ら」をつける(例:プロチャスカ¹⁾)。文献は、一般に検索可能な公刊文献に限り、入手困難、検索不可能な文献は避ける(文献として引用できないものの例:社内資料、未発表論文、公刊されない学位論文、カタログ等)。
- ⑪ 統計解析に関する表記方法等については、本【執筆要領】「5. 統計解析」の項を参照のこと。

4. 文献のリスト

引用文献の記載は、下記のようにIndex Medicusに従い、欧文雑誌名は略記し、イタリック表記とする。和文雑誌名は略記しない。

- ①【雑誌】 著者名(和文はフルネームで、欧文は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで、筆頭著者から3名まで記し、それ以上の場合、「, 他」[, et al.]を用いて略記する): 論文タイトル, 雑誌名, 巻数, 初頁-終頁(発行年)
(和) 金田美美, 菅野幸子, 佐野文美, 他: 我が国の子どもにおける「やせ」の現状: 系統的レビュー, 栄養学雑誌, **62**, 347-360 (2004)
(洋) Rosell, M.S., Hellenius, M.L.B., de Faire, U.H., et al.: Associations between diet and the metabolic syndrome vary with the validity of dietary intake data, *Am. J. Clin. Nutr.*, **78**, 84-90 (2003)
- ②【単行本(報告書も含む)】 著者名: 論文タイトル, 書名, (編者), pp. 初頁-終頁(発行年) 出版社, 所在地
(和) 健康・栄養情報研究会編: 厚生労働省平成16年国民健康・栄養調査報告, p. 90 (2006) 第一出版, 東京
(洋) WHO: The World Health Report 2002: Reducing risks, promoting healthy life (2002) WHO, Geneva

- ③【翻訳本】 著者名：原著名/訳者名，書名，pp. 初頁-終頁（発行年）出版社，所在地
Willet, W.: Nutritional epidemiology, 2nd ed./田中平三監訳，食事調査のすべて—栄養疫学—（第2版），pp. 93-98（2003）第一出版，東京
- ④【インターネット上の文献】 著者名*：タイトル*，URL（アクセス日*）
文部科学省，厚生労働省：人を対象とする医学系研究に関する倫理指針，http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf（2015年7月12日）注*：明らかな場合。

5. 統計解析

1) 統計解析に関する留意点

確認事項（ほとんどの場合の原則であるが，例外もあり得る） ※【投稿原稿チェックリスト】で確認する。

①正規分布及び非正規分布のデータが区別され，それぞれに適切な要約統計量の記載，推定・検定方法を用いる。

例1) 正規分布：平均と標準偏差，非正規分布：中央値と四分位範囲（25%，75%点）で示す。

例2) 正規分布：パラメトリックな方法，非正規分布：ノンパラメトリックな方法を用いる。

②対応のあるデータの分析では，対応のあるデータのための分析方法を用いる。

例) 対応のある *t* 検定，Wilcoxon 符号付き順位和検定，McNemar 検定，条件付きロジスティック回帰

③割合（%）を示す時は，分母となる総人数が分かるように記述する。

%を対比させる際，差である場合には「ポイント」または「パーセントポイント」と表す。

④検定の有意水準を示し，両側検定か片側検定かを明記する。注) ほとんどの場合は両側検定である。

⑤ *p* 値は原則としてそのままの値を示す。0.01以上の場合には有効数字を2桁（例：0.21，0.054），0.01未満の場合には有効数字を1桁（例：0.009），0.001未満の場合は<0.001と記載する。

注) 図表の簡略化のために記号等で有意性を表すこともある。

⑥分析結果の数値は，必要十分な桁数で示す。

注) 目安として，平均値・標準偏差・標準誤差の小数部は，元のデータより1桁多く，割合（%）では整数または小数第1位まで，オッズ比・相対危険は小数第2位まで。

⑦回帰係数，オッズ比等は，点推定値だけでなく，標準誤差や95%信頼区間または *p* 値も示す。

2) 論文における記載方法：

- ・使用した全ての統計学的手法について本文中の「方法」で詳細に説明し，表の脚注や図の説明に検定法・統計モデルの名称等を簡潔に記述する。
- ・市販のコンピューターソフトを用いて処理した場合は，使用したソフトウェア名（バージョン，開発元）を本文中に記載する（例：IBM SPSS Statistics 20（日本アイ・ビー・エム株式会社））。
- ・測定精度以上の桁数の表示や，栄養学的に意味のない桁数の表示がないように留意する。

6. 原稿以外に必要な書類：全ての書式を，学会ホームページからダウンロードすること。

- ①投稿手続き票 【様式1】
- ②著作権委譲承諾書 【様式2】
- ③利益相反開示書 【様式3】
- ④投稿原稿チェックリスト

7. その他留意事項

1) 食事調査

食物摂取頻度調査法等，調査票を用いる場合には，その妥当性を示した論文を引用すること。また，新たに開発した調査票の場合，その妥当性を本文中に示すこと。

2) 食事摂取基準

「日本人の食事摂取基準（2015年版）」を参照し，正しく摂取量のアセスメント等を行うこと。

3) 介入研究・疫学研究のデザインと報告

無作為化比較試験については CONSORT 声明 (<http://www.consort-statement.org>) を，非無作為化比較試験については TREND 声明 (*Am J Public Health. 2004; 94: 361-6*) を，観察研究については STROBE 声明 (<http://www.strobe-statement.org>) を参考にするとよい。

なお，これらの日本語訳及び解説は，中山健夫，津谷喜一郎編著：臨床研究と疫学研究のための国際ルール集（2008）ライフサイエンス出版，東京 に記載されている。

（一部改定：2017年1月1日）